

J.LEAGUE™ NEWS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

大阪府、茨城県、静岡県の3会場で開催された2013 JリーグU-16 チャレンジリーグ (写真はいずれも静岡会場)

「2013 JリーグU-16 チャレンジリーグ」を開催

試合出場の機会が少ない年代の選手たちに実戦経験の場を。日本サッカー界の底上げに寄与

J1・J2リーグ戦、2013 Jリーグヤマザキナビスコカップ、AFCチャンピオンズリーグ2013と、Jクラブのトップチームが戦う諸大会が早くも熱を帯びている。一方で、Jクラブのアカデミーに所属する若い選手たちが、そうした大会でプレーする日を夢見ながら、それぞれのチームで技を磨いている。Jリーグは3月2～28日に大阪府、茨城県、静岡県の3会場で、16歳以下の選手を対象とした「2013 JリーグU-16 チャレンジリーグ」を開催した。また、4月には「2013 JリーグU-13、U-14」もスタート。可能性を持つ各年代の選手により多くの実戦経験の場を提供し、日本サッカー界の底上げに寄与していく。(2ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS



J.LEAGUE™
100 YEAR VISION
PARTNER

J.LEAGUE™
FAIRPLAY PARTNER

LEAGUE CUP
SPONSOR

SUPER CUP
SPONSOR

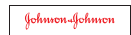
J.LEAGUE™ OFFICIAL
EQUIPMENT PARTNER

J.LEAGUE™
OFFICIAL SUPPLIER

J.LEAGUE™ OFFICIAL
BROADCASTING
PARTNER

SPORTS PROMOTION
PARTNER

J.LEAGUE™ OFFICIAL
TICKETING PARTNER





「2013 JリーグU-16 チャレンジリーグ」が4回目の開催

Jクラブのアカデミーに所属する16歳以下(1996年4月2日以降生まれ)の選手を対象とした「2013 JリーグU-16 チャレンジリーグ」は、今回が4回目の開催となった。出場したのはJリーグに加盟する全40クラブに、Jリーグ準加盟クラブのFC町田ゼルビアを加えた計41クラブ。大阪府のJ-GREEN堺、茨城県のト伝の郷運動公園多目的球技場、静岡県の時之栖スポーツセンターを会場に、若い選手たちが技を競い、交流を深めた。

世界では17～18歳でトップチームへ昇格し、技術面でも精神面でも自立したプロサッカー選手として、第一線で活躍するケースも多い。その準備段階として15～16歳の育成が重要となるのは言うまでもないが、日本では主に高校1年に当たり、ユースカテゴリーでは試合への出場機会が限られている。そうした選手たちに少しでも実戦経験を積ませ、ライバルと切磋琢磨する機会を与えることを狙いとするのが「JリーグU-16 チャレンジリーグ」。将来の「JリーグU-16」設立に向けた検討の機会ともなっている。

そのために、各会場で試合方式こそ異なるものの、リーグ戦方式を基本として順位をつ



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

静岡県の時之栖スポーツセンターで行われたグループ5。選手にとっても、指導者にとっても、有意義な大会だ

け、1位チームの表彰やMVPの選考・表彰も実施するなど、タイトルマッチの真剣勝負に近づける努力も成されている。選手はもちろん、

指導者にとっても新たなシーズンを前にした選手の見極めなど、非常に有意義な大会として定着している。

2013 JリーグU-16 チャレンジリーグ 順位表

グループ1

3月2~3日

J-GREEN堺(大阪府)

〈試合方式〉

・30分ハーフ(ハーフタイム10分)

・4チームの総当たり後に1位 vs 2位、3位 vs 4位を実施

順位	チーム	勝点	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	C大阪	9	3	0	0	5	0	+5
2	名古屋	6	2	0	1	6	2	+4
3	千葉	3	1	0	2	4	6	-2
4	岡山	0	0	0	3	1	8	-7

【3位 vs 4位】

千葉 0-0 (PK4-3) 岡山

【1位 vs 2位】

C大阪 1-0 名古屋

【最終順位】

1位 C大阪

2位 名古屋

3位 千葉

4位 岡山

MVP: 久保 吏久斗(C大阪)

グループ2

3月16~17日

J-GREEN堺(大阪府)

〈試合方式〉

・20分ハーフ(ハーフタイム5分)

・5チームずつ2グループに分かれ、グループ内総当たりの対戦

Aグループ

順位	チーム	勝点	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	京都	10	3	1	0	14	1	+13
2	鳥取	8	2	2	0	3	1	+2
3	仙台	6	2	0	2	2	3	-1
4	熊本	3	1	0	3	1	8	-7
5	福岡	1	0	1	3	2	9	-7

MVP: 岩元 颯 オリビエ(京都)

Bグループ

順位	チーム	勝点	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	G大阪	10	3	1	0	10	3	+7
2	広島	7	2	1	1	3	2	+1
3	大分	4	1	1	2	5	6	-1
4	鳥栖	4	1	1	2	3	5	-2
5	岐阜	3	1	0	3	2	7	-5

MVP: 高木 彰人(G大阪)

グループ3

3月25~27日

ト伝の郷運動公園多目的球技場(茨城県)

〈試合方式〉

・35分ハーフ(ハーフタイム10分)

・6チームが総当たりの対戦

順位	チーム	勝点	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	鹿島	13	4	1	0	18	1	+17
2	大宮	12	4	0	1	13	4	+9
3	札幌	9	3	0	2	10	9	+1
4	町田	6	2	0	3	10	11	-1
5	東京V	4	1	1	3	6	8	-2
6	北九州	3	1	0	4	3	27	-24

MVP: 美細津 怜央(鹿島)

グループ4

3月23~25日

時之栖スポーツセンター(静岡県)

〈試合方式〉

・35分ハーフ(ハーフタイム10分)

・5チームずつ2グループに分かれ、グループ内総当たりの対戦

Aグループ

順位	チーム	勝点	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	柏	8	2	2	0	6	1	+5
2	山形	7	2	1	1	6	1	+5
3	栃木	5	1	2	1	3	3	0
4	愛媛	4	1	1	2	3	7	-4
5	湘南	3	1	0	3	2	8	-6

MVP: 宇野木 悠佑(柏)

Bグループ

順位	チーム	勝点	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	F東京	10	3	1	0	14	1	+13
2	横浜FC	9	3	0	1	7	5	+2
3	清水	7	2	1	1	7	3	+4
4	徳島	3	1	0	3	1	11	-10
5	水戸	0	0	0	4	1	10	-9

MVP: 大熊 健太(F東京)

グループ5

3月26~28日

時之栖スポーツセンター(静岡県)

〈試合方式〉

・35分ハーフ(ハーフタイム10分)

・5チームと6チームの2グループに分かれ、グループ内総当たりの対戦

Aグループ

順位	チーム	勝点	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	甲府	13	4	1	0	16	2	+14
2	磐田	10	3	1	1	18	9	+9
3	神戸	10	3	1	1	10	8	+2
4	新潟	7	2	1	2	12	10	+2
5	長崎	3	1	0	4	7	25	-18
6	川崎F	0	0	0	5	5	14	-9

MVP: 小林 岩魚(甲府)

Bグループ

順位	チーム	勝点	勝	引分	敗	得点	失点	得失点差
1	横浜FM	12	4	0	0	18	1	+17
2	松本	6	2	0	2	5	7	-2
3	浦和	6	2	0	2	3	5	-2
4	富山	3	1	0	3	1	7	-6
5	群馬	3	1	0	3	2	9	-7

MVP: 田中 都也(横浜FM)



「2013 JリーグU-13、U-14」もスタート

Jリーグに加盟する全40クラブおよび地域クラブ、中学校を含めた第3種チーム所属の選手を対象とした大会である「2013 JリーグU-13」、「2013 JリーグU-14」が、ことし4月からスタートした。両大会は、試合出場機会の少ないそれぞれの年代の選手に定期的な試合出場の場を提供し、個の育成を

行うことを目的として開催している。

JリーグU-13は2007年、同U-14は08年に始まった。ことしはJリーグ全40クラブに加え、地域クラブ、中学校(U-13のみ)を含め計192チーム(U-13/143チーム、U-14/49チーム)が参加している。

大会はポラリス(北海道・東北・北信越)、

メトロポリタン(関東)、ボルケーノ(東海)、ヤマトタケル(関西)、サザンクロス(中国・四国・九州)の名を冠した地域ごとの開催。U-13は60分間(前後半各30分)、U-14は70分間(同35分)の試合を行う。それぞれのグループごとに、優勝チームには優勝シャーレが授与される。また、得点王や各チームの監督の選出によるMVP賞の表彰も行われ、記念品が贈られる。

全試合が入場無料で、試合日程詳細は各クラブの公式ホームページなどを参照。両大会はことし12月まで行われる予定となっている。



Jリーグ20周年 特別ショートフィルム「旅するボール」が完成

Jリーグ開幕20周年を記念して、Jリーグと米国アカデミー賞が公認するアジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルム フェスティバル & アジア (SSFF & ASIA)」がタイアップしていた、20周年特別ショートフィルム「旅するボール」が完成。4月1日にはJFAハウスに、監督の大川五月氏、作品に出演したキャストらを招き、完成披露記者会見が行われた。

本企画は、Jリーグが記念すべき20周年を迎えるにあたり、日頃からの支援・協力に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、設立以来伝え続けてきた、スポーツを通じた豊かな社会・文化の創造のため、スポーツの持つ力を映像で広く発信するために立ち上げられた。ショートショート実行委員会が、過去にSSFF & ASIAで入選または受賞した監督を対象に企画を公募。Jリーグの20周年を象徴する作品とするため、「Jリーグが国内のスポーツ文化に大きな影響を与えた『ホームタウン』という考

え方」、「創設以来、提唱し続けている『身近にスポーツがあるライフスタイル』」、「Jリーグがこれから進出していこうと考えている『海外』」をテーマとして、応募企画の中からJリーグ、同実行委員会でも選考し、昨年6月に国内外の映画祭で活躍する大川氏が監督に決定した。

「(製作にあたり)最初に浮かんだのが、津波で流されたサッカーボールが1年をかけてアラスカに流れ着いたというニュース。私は東日本大震災が起こった時には海外にいたんですが、あの後何が起こったのか、皆さんがどうしているのかなど知らないことも多いと思うので、それを考える機会になればと思い(ストーリーを)考えた」と大川氏。東日本大震災の被災地となった宮城県の仮設住宅で暮らす家族を描いた作品について、製作総指揮を執ったJリーグの大東和美チェアマンは「Jリーグが大切にしてきた理念・メッセージが少しでも伝われば。とても心温まる作品に仕上がっていると思う。Jリーグの新たなチャレンジとなるので、是非、



父に贈るサッカーボールへ寄せ書きを集めるため、故郷を巡る旅に出た小雪(西畑澤花) ©旅するボール/Jリーグ

ご覧いただきたい」と述べた。

また、メンバー全員が仙台市在住というロックバンド「MONKEY MAJIK (モンキーマジック)」が、主題歌の「If」を提供。同市をホームタウンとするベガルタ仙台も、作品製作に特別協力を行った。

この作品は、ことし5月下旬～6月中旬に東京、横浜で開催されるSSFF & ASIA 2013の「フットボールプログラム presented by J.LEAGUE」でプレミア上映される。

Jリーグ開幕を記念して、5月中の試合で特製デザインの記念球「adidas TANGO 12 Kotohogi (アディダス タンゴ 12 コトホギ)」を使用

Jリーグは、5月15日(水)のリーグ戦開幕20周年を記念して、同11日(土)～29日(水)に開催するJ1・J2リーグ戦、Jリーグヤマザキナビスコカップにおいて、特製デザイン記念球「adidas TANGO 12 Kotohogi (アディダス タンゴ 12 コトホギ / 以下KOTOHOGI)」を試合球として採用することを決定した。

KOTOHOGIは、2012 Jリーグ公式球のTANGO 12をベースに、Jリーグ20周年を記念したボールとして、Jリーグカラーの赤・白を基調とし、スポーツらしさと華やかさを共存させたデザイン。タンゴパネル部分は、末広がりを意味する日本古来の地紋である青海波

(せいがいは)と、お祝いの剣舞をイメージした剣をモチーフにし、その周りにはJリーグ全40クラブがさらに発展していく様子をイメージしたクラブカラーの花火のデザインをレイアウトした。KOTOHOGIの名称は、祝賀の意味である「言祝ぎ」を語源としている。

今回の記念球は、Jリーグオフィシャルエグイップメントパートナーの株式会社モルテンから提供を受け、試合球レプリカは同社より販売が予定されている。

また、KOTOHOGIを使用したキャンペーンを、公式チケット販売サービス「Jリーグチケット」上で5月31日(金)まで実施。抽選でKOTOHOGIの特別パッケージ入りミニボ



ール(非売品)や実際に試合で使用されるKOTOHOGIがプレゼントされる。本企画は、株式会社モルテンと、オフィシャルチケッティングパートナーのぴあ株式会社とのタイアップにより実現した。詳細はJリーグ公式ホームページを参照。

Jリーグ&東京フィルハーモニー交響楽団「ハートフルコンサート2013」を開催



黒柳氏を中心に川淵キャプテン(右)と大東チェアマン(左)

Jリーグは開幕20周年を記念し、1911年創立と日本で最も古い歴史と伝統を誇り、長年にわたって国内のクラシック界で輝かしい実績を残している東京フィルハーモニー交響楽団(理事長:三木谷 浩史)とタイアップして、8月15日(木)に東京芸術劇場で「ハートフルコンサート2013」を開催することになった。

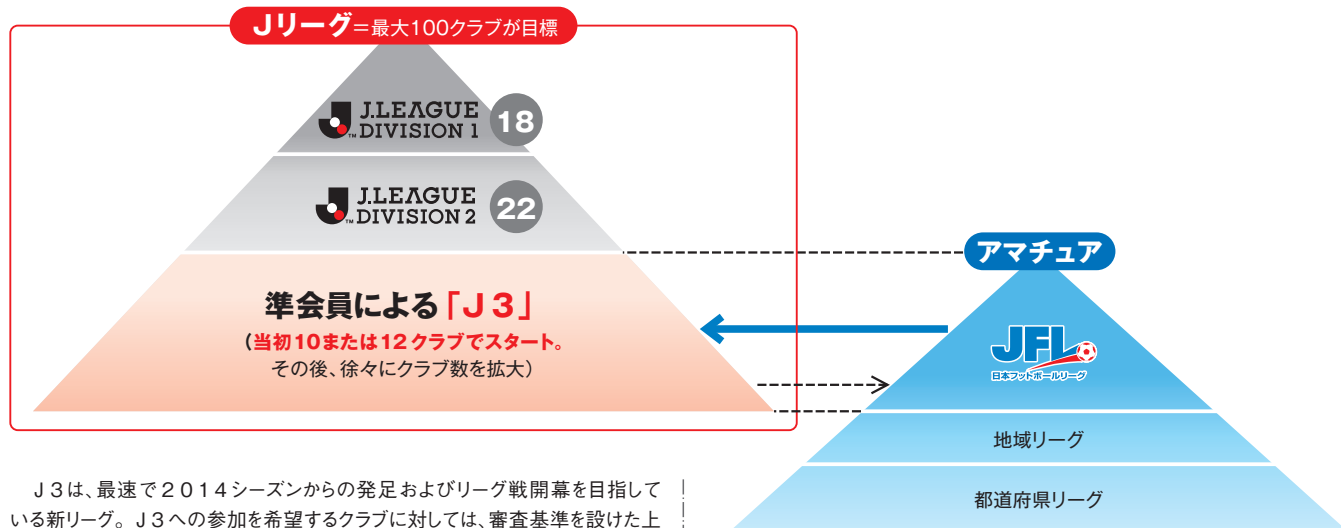
4月19日には、コンサートMCを務める

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団の黒柳徹子 副理事長、同ゲストでクラシックにも精通している日本サッカー協会の川淵三郎キャプテン(最高顧問)がJFAハウスでの記者発表会に出席。あいさつを行ったJリーグの大東和美チェアマンは「スポーツ、そして音楽を愛する皆さんとともに、Jリーグはさらなる夢の実現に向けて新たな一歩を踏み出す」と述べた。

Jリーグディビジョン3(J3)の概要

2013年2月26日に開催したJリーグ理事会で、参加クラブを決めるための審査要件を決議したJリーグディビジョン3(J3)。3月には東京、盛岡、奈良で説明会も行い、その概要を明らかにした(前号既報)。今号では、J3の位置付け、昇降格、J3クラブへの道のり、Jリーグ準加盟クラブの今後、「Jリーグ百年構想クラブ」についてのポイントを記し、J3設立に関する動きを紹介する。

1. Jリーグディビジョン3(J3)について



J3は、最速で2014シーズンからの発足およびリーグ戦開幕を目指している新リーグ。J3への参加を希望するクラブに対しては、審査基準を設けた上で審査を行い、審査要件を充足したクラブに参加を認める。

J3への参加が認められたクラブは「Jリーグ準会員」としてJリーグに入会することとなり、公益社団法人 日本プロサッカーリーグの社員として総会の議決権を持つ。このことから「J3クラブ」と「Jリーグ準会員」は事実上、同義語として使う。

なお、J3に参加したクラブは、J3リーグ戦の成績によってJFLに移籍(降格)することはない(競技成績以外の事情によるJリーグからの退会はあり得る)。

J3 発足初年度(最速で2014シーズン)における募集クラブ数は「10または12」とし、最終的なクラブ数はJリーグ理事会で審議の上、10または12のいずれかで決定する。その後は、全国的にJ3を目指す動きが活発化するように、取り組みを継続する。

J3 発足後(最速で2015年)におけるJ3への参加資格および募集クラブ数については、あらかじめ検討の上、2014年上期までに決定し、通知する。

2. J3を中心とする昇降格システム

2013シーズンにおけるJ1・J2・J3・JFL・地域リーグ間のクラブ異動に関する表

	2012	2013
J1 ⇄ J2	J1 下位3クラブ ⇄ J2 上位2クラブ + J1 昇格プレーオフ優勝クラブ	
J2 ⇄ JFL	J2 22位 ⇄ JFL 1位 J2 21位 ⇄ JFL 2位 (J2・JFL 入れ替え戦)	J2 22位 ⇄ JFL 1位 J2 21位 ⇄ JFL 2位 (J2・JFL 入れ替え戦) ※ 降格・入れ替え戦敗戦クラブはJFLではなく、J3へ降格
J2 ⇄ J3		
J3 ⇄ JFL		一部クラブがJFLからJ3へ移籍 ※ J3からJFLへの移籍はない
地域リーグ	JFL との入れ替え	基本的にJFL との入れ替え ただし、要件を充足すれば、J3に入会できる可能性あり

J3 発足初年度にJ3に参加するクラブは、以下の3カテゴリーから構成される。ただし、以下の①②③の順で、優先的にJ3に入会することとなる。従って、①②に該当するクラブで発足初年度のJ3参加クラブ数が十分な数に到達した場合、③に該当するクラブは発足初年度にJ3に入会できない可能性がある。

- ① 2013シーズンの成績をもってJ2から降格するクラブ(JFLではなくJ3に降格)
- ② JFL 所属のJリーグ準加盟クラブ(一定の審査により、資格要件が充足されれば、JFLを退会の上、J3へ入会(移籍)する)
- ③ 地域リーグに所属するJリーグ準加盟クラブ(一定の審査および地域リーグでの競技成績により、資格要件が充足されれば、地域リーグから昇格し、J3へ入会する)

3. J3クラブ(Jリーグ準会員)になるまでの道のり

段階	要件	根拠規程	スケジュール											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ステップ1	2013年6月30日までにJリーグ準加盟申請を行い、その後、準加盟クラブとして承認されること	Jリーグ準加盟規程						★			★			
ステップ2	「J3ライセンス」資格審査および「J3スタジアム要件」審査に合格すること	「J3ライセンス基準」 「J3スタジアム要件」		基準・要件配布 順次審査スタート			不足個所の 改善・指導を実施					★		
ステップ3	「J3入会審査」を受け、Jリーグ理事会から入会を承認されること	「J3入会審査要項」		要項配布		ステップ2が完了したクラブより、 順次審査をスタート							★	
ステップ4	競技成績											全国地域サッカーリーグ 決勝大会 成績確定	★	

J3発足初年度(2014シーズン)から参加するクラブは、上記の四つのステップ(審査要件)を全て充足したクラブの中から、最終的にJリーグ理事会の承認により決定される。従って、上記の四つのステップを全て充足したとしても、場合によっては2014シーズンにJ3へ参加できず、2015シーズン以降からの参加となることがあり得る。

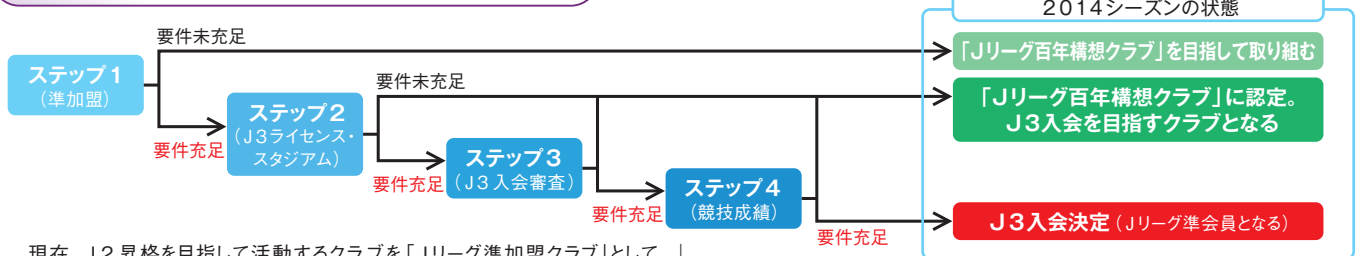
2013年2月時点で、既にJリーグ準加盟クラブとなっているクラブについては、ステップ1の要件を充足しているため、ステップ2以降の要件に関する審査を先行して実施する予定。これにより、J3への参加を希望するクラブに対する審査が集中することを防ぐ。

J3への参加を希望するクラブに対する審査は、各クラブとスケジュールを調整しながら個別に実施する。

2014シーズンにJ3へ参加するクラブは、2013年11月のJリーグ理事会で最終決定する予定(変更の可能性はある)。

【参考】Jリーグ準加盟クラブ(2013年4月16日現在)
ブラウブリッツ秋田(JFL)/FC町田ゼルビア(JFL: J2からの降格クラブ)
SC相模原(JFL)/AC長野パルセイロ(JFL)/ツエーゲン金沢(JFL)
カマタマーレ讃岐(JFL)

4. Jリーグ準加盟クラブの今後



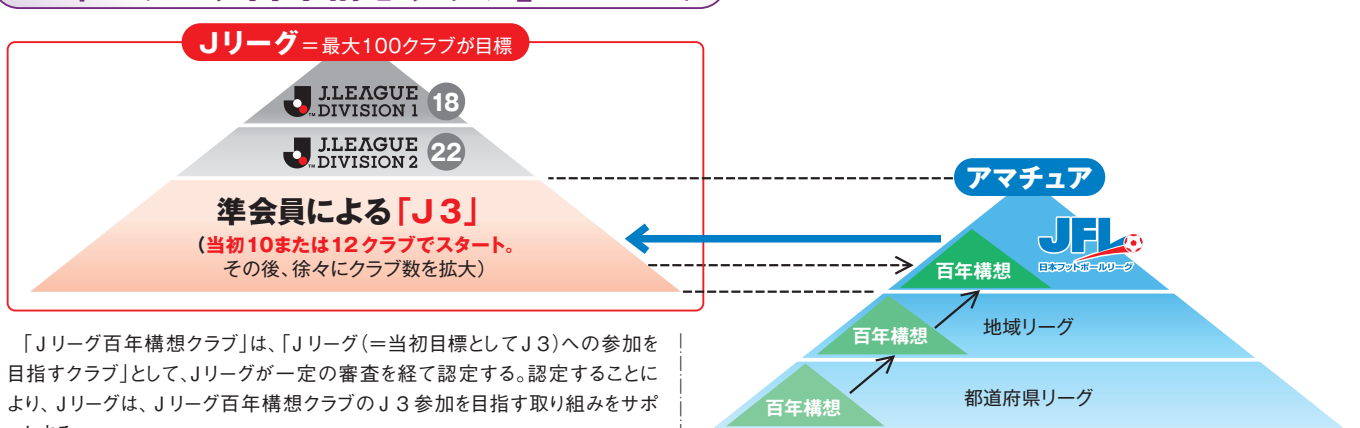
現在、J2昇格を目指して活動するクラブを「Jリーグ準加盟クラブ」として認定し、当該クラブの活動をサポートしているが、J3の発足に伴い、現在のJリーグ準加盟クラブを下記のように整理する。

- ① 2013年時点のJリーグ準加盟クラブのうち、2014シーズンにJ3への参加が決まったクラブ → 2013年は「Jリーグ準加盟クラブ」、2014年は「Jリーグ準会員(J3クラブ)」となる。
- ② 2013年時点のJリーグ準加盟クラブのうち、2014シーズンにJ3へ参加できなかったクラブ → 2013年は「Jリーグ準加盟クラブ」、2014年は「Jリーグ百年構想クラブ」となる。

2014シーズンからのJ3参加を希望したもの、ステップ4までの各審査要件を充足せず、J3への参加がかなわなかったクラブについては、Jリーグが「Jリーグ百年構想クラブ」として認定し、2015シーズン以降にJ3へ参加することを目指す。

2014年以降は、J3に所属するクラブを「Jリーグ準会員」、J3を目指して活動するクラブのうち、Jリーグの審査を受けて承認されたクラブを「Jリーグ百年構想クラブ」と呼ぶ。

5. 「Jリーグ百年構想クラブ」について



「Jリーグ百年構想クラブ」は、「Jリーグ(=当初目標としてJ3)への参加を目指すクラブ」として、Jリーグが一定の審査を経て認定する。認定することにより、Jリーグは、Jリーグ百年構想クラブのJ3参加を目指す取り組みをサポートする。

Jリーグ百年構想クラブは、経営基盤などの強化を着実に進め、所属リーグで十分な競技成績を残し、昇格していくことにより、J3に参加(Jリーグに入会)することとなる。

Jリーグへの参加を目指すということは、Jリーグの理念に共鳴し、ともに推進する役割を担うものとして、「Jリーグ百年構想～スポーツで、もっと、幸せな国へ。」のスローガンのもと、Jリーグとともに地域に根差したスポーツクラブを核としたスポーツ文化の振興活動に取り組むこととなる。

Jリーグ百年構想クラブは、公益社団法人日本プロサッカーリーグの正式な会員ではないが、Jリーグから、これまでのJリーグ準加盟クラブ同様のサポートを受ける。Jリーグは、より多くの仲間を正式な会員として迎え入れるべく、2014年以降はJリーグ百年構想クラブの拡大に努める。J3の発足を機にあらためて、Jリーグへの参加を目指すクラブを全国に広げていくことが、Jリーグの役割である。



ファミリーJoinデイズ 開催

ゴールデンウィークはスタジアムでおもいきり楽しもう！ 4月27日～5月6日 J1・J2リーグ戦各試合会場にて開催！

Jリーグは、4月27日から5月6日（月・休）までのJ1・J2リーグ戦を対象に、試合前後に家族で楽しめるイベントが満載の「JリーグファミリーJoinデイズ」を開催する。

JリーグファミリーJoinデイズもこれまで13回目を迎え、ゴールデンウィークにスタジア

ムへ来場したファミリーが楽しい思い出をつくることできるように、全40クラブがそれぞれに趣向を凝らしたイベントなどを実施する。

子どもからお年寄りまで多くの方々にJリーグファミリーJoinデイズへ来場いただき、ホームタウンのクラブを応援するだけでなく、試合

観戦以外の楽しみも体験してもらう機会。

「Jリーグ百年構想」で掲げるように、スポーツを通じて世代を超えた触れ合いの輪が広がることを願って開催される。なお、サンフレッチェ広島はAFCチャンピオンズリーグの影響により、5月11日（土）の第11節の開催となる。

おすすめファミリー企画

J1

クラブ名	対象試合	開催日／キックオフ	対戦相手	試合会場	内容	実施時間
仙台	第8節	4月28日（日） 16:00	鳥栖	ユアスタ	ファミリーでスタジアムツアー	13:30～14:15
鹿島	第10節	5月 6日（月・休） 16:00	湘南	カシマ	母の日とJoin アントラズファミリー・絆「お母さんありがとう」	13:00～14:00※開始時間の変更あり
浦和	第8節	4月27日（土） 17:00	清水	埼玉	『レッズとjoin!』エンジョイ！親子ハートフルサッカー ～集まれレッズキッズ！一緒にサッカーを楽しもう!!～	13:00～、14:00～（予定）
大宮	第10節	5月 6日（月・休） 15:00	広島	NACK	家族でお多福！広島お好み焼限定販売	12:30～商品がなくなり次第終了
柏	第10節	5月 6日（月・休） 19:00	横浜FM	柏	フードでJoin! 家族で食べよう！レイソルグルメ！	開場～ハーフタイム終了
F東京	第10節	5月 6日（月・休） 15:00	磐田	味スタ	ファミリーJoinデイズ ご来場者先着10,000名様にF東京とSHIPSのコラボバッグプレゼント	—
川崎F	第9節	5月 3日（金・祝） 19:00	名古屋	等々力	「フロンターレ牧場」～川崎の動物達と家族でふれ合える!～	15:30～18:30
横浜FM	第8節	4月27日（土） 16:00	甲府	日産ス	「サッカー×将棋」スペシャルイベント「親子で将棋を楽しもう！」	14:00～16:00（予定）
湘南	第9節	5月 3日（金・祝） 16:00	C大阪	BMWス	ピッチでJoin～ベルマーレファミリー集まれ!～	—
甲府	第9節	5月 3日（金・祝） 14:00	磐田	中銀スタ	「よっちゃヴァレファミリー」～ヴァンのぼり、フォーレのぼり、青赤兜をつくろう～	10:30～14:00
新潟	第10節	5月 6日（月・休） 14:00	甲府	東北電ス	家族でSMILE! ファミリーサッカーフェスティバル	11:00～12:30（予定）
清水	第9節	5月 3日（金・祝） 15:00	新潟	アイスタ	・『GO☆GO☆5』5試合連続企画! フェイスペイントラリー ・親子で対決! エスパルスクイズ（3日）／IAIミニロボットPK対決（6日） ・スーパーヒーロー大戦Z～ぬり絵&記念撮影コーナー 親子で作ろう! オレンジ こいのぼり&オレンジ兜&ゲララ 〆バルちゃんふあふあ 〆こバルちゃん撮影会	11:30～15:00 10:30～14:00
磐田	第8節	4月27日（土） 16:00	湘南	ヤマハ	決定次第、クラブ公式サイトにてお知らせいたします。	—
名古屋	第8節	4月27日（土） 14:00	広島	瑞穂陸	ディズニーチャンネル presents ふれあいキッズひろば	10:00～12:30
	第10節	5月 6日（月・休） 19:00	仙台	豊田ス	ファミリーでワークショップ体験!	15:00～ ※イベントによって異なる
	第8節	4月27日（土） 14:00	大分	金鳥スタ	「セレッソ大阪チャリティクイズラリー in NAGAI 2013」～ご家族、お友達でクイズ王を目指そう～	未定
C大阪	第10節	5月 6日（月・休） 16:00	浦和	長居	「アップ学習会presentsときどきチャレンジ! セレッソ大阪キッズお仕事体験」～スタッフのお仕事を体験して、セレッソ大阪をもっと好きになろう!～	未定
広島	第11節	5月11日（土） 13:00	大分	Eスタ	ファミリーで、母の日のプレゼントを作ろう!	10:00～13:00
鳥栖	第9節	5月 3日（金・祝） 18:00	F東京	ベアスタ	今年もやります! ファミリーチケットを買ってみんなで応援しよう!! 親子で食べよう! 佐賀牛!! 「ベアスタの中心で家族への思いを叫ぶ!」サガン鳥栖大選手権!!	決定次第クラブホームページにて告知
大分	第9節	5月 3日（金・祝） 13:00	大宮	大銀ド	GWだ! スポーツだ! 子ども祭りだ! ～家族 de トリニータ～	※イベントによって異なる

J2

クラブ名	対象試合	開催日／キックオフ	対戦相手	試合会場	内容	実施時間
札幌	第12節	5月 3日（金・祝） 16:00	京都	札幌ド	ファミリーサッカー教室（仮）親子でサッカーを楽しもう!!	12:00～13:30
山形	第12節	5月 3日（金・祝） 13:00	富山	NDスタ	親子スタジアムツアー～サッカーのお仕事見学	11:00～11:30
水戸	第13節	5月 6日（月・休） 13:00	長崎	KSスタ	ホーリーホックパーク 親子サッカー教室	10:00～11:30
栃木	第12節	5月 3日（金・祝） 13:00	岡山	栃木グ	親子でスタジアムクロスワードにチャレンジ!! ～クイズに答えてプレゼントをGET～	10:45～13:00（予定）
群馬	第13節	5月 6日（月・休） 15:00	東京V	正田スタ	スマイルキッズキャラバン ～ふれあいサッカー教室開催～	12:00～13:30
千葉	第12節	5月 3日（金・祝） 19:00	愛媛	フクアリ	黄色いかぶとでちょー笑顔コンテスト ～家族で折り紙!	16:30～18:30（15:00～16:00も実施）
東京V	第12節	5月 3日（金・祝） 16:00	横浜FC	味スタ	GWファミリー企画! 親子deサッカー教室&家族deピッチサイドシート観戦ツアー!	12:00～13:00
横浜FC	第13節	5月 6日（月・休） 13:00	福岡	ニッパ球	「集まれ!キッズ! なんでも聞けちゃう!」選手とおしゃべりコーナー	12:00～12:25
松本	第12節	5月 3日（金・祝） 13:00	群馬	松本	アルウィン ファミリーフットボールパーク登場! ～GWは親子でアルウィンへ行こう～	—
富山	第13節	5月 6日（月・休） 19:00	鳥取	富山	思い出がいっぱい ～親子3世代が一緒に写った写真（紙焼き）持参で家族全員が1,000円で入場!～	16:30～20:30
岐阜	第13節	5月 6日（月・休） 19:00	千葉	長良川	ファンクラブ会員限定: 親子・家族バックヤードツアー	試合前
京都	第13節	5月 6日（月・休） 18:00	松本	西京極	「西京極スタジアムで! ファミリー・グループ・みんなで大鯉のぼり送り競争」	16:30～17:00（雨天中止）
G大阪	第12節	5月 3日（金・祝） 19:00	岐阜	万博	子供の日企画 ガンバボーイ似顔絵コンテスト	16:15～17:00
神戸	第13節	5月 6日（月・休） 16:00	G大阪	ノエスタ	神戸市小中学生特別観戦会 ～ゴールデンウィークは親子そろってスタジアムへ～	—
鳥取	第12節	5月 3日（金・祝） 16:00	徳島	とりスタ	親子 de エンジョイスタジアム	—
岡山	第13節	5月 6日（月・休） 14:00	山形	カンスタ	GWはカンスタへ 親子でつくろう最高の思い出!	11:00～14:00
徳島	第13節	5月 6日（月・休） 13:00	熊本	鳴門大塚	ファミリー JOINデイズ ～こども祭り～	11:00～14:00ごろまで
愛媛	第13節	5月 6日（月・休） 19:00	栃木	ニנסスタ	ファミリー柑太パーク「スポーツパーク体験!」	16:00～18:30
福岡	第12節	5月 3日（金・祝） 13:00	神戸	レベスタ	家族で作ろう! レベスタでゲーラ作成!	11:00～12:20（予定）
北九州	第11節	4月28日（日） 16:00	栃木	本城	ファミリーふれあいサッカー教室 ～ボールでつなぐ親子の“絆”	13:00～14:00
長崎	第12節	5月 3日（金・祝） 13:00	北九州	長崎県立	V体感! ～家族の絆、VVV鯉のぼり大集合!～	10:00～15:00
熊本	第12節	5月 3日（金・祝） 14:00	水戸	うまスタ	親子でくまモン体操&選手とハイタッチ ～家族でGWを楽しもう!～	12:00～12:25（予定）

（2013年4月22日現在。内容については各Jクラブホームページなどで要確認）

「アイデムしごと探検隊」に協力 ～小学4、5年生がJリーグおよびセレッソ大阪の仕事現場を訪問～

Jリーグおよびセレッソ大阪は、3月25、28日にJリーグトップパートナーの株式会社アイデムが開催した「アイデムしごと探検隊」に協力した。



©JLEAGUE PHOTOS
Jリーグ関連会社を訪問して熱心に話を聞く子どもたち

「アイデムしごと探検隊」は、春休みを利用して小学生が「仕事」の現場を訪問・見学し、働いている人々から話を聞くことを通じて、「仕事・働くこと」について考える機会を提供。Jリーグ、サッカーに関わる仕事をしている人々から実際に話を聞くことで、クラブ経営や、試合を行うために多くの人々が携わっていることを、子どもたちの目と耳でとらえ、仕事の楽しさ・大切さを学ぶことを目的としている。Jリーグは2007年から協力をし、Jクラブでの実施は昨年のガンバ大阪に続いて2回目となった。

Jリーグでは首都圏の小学4、5年生(当時)

18人が参加し、ボール製造、審判員、データ関連というサッカーに関係した仕事に携わる専門家、元Jリーグ選手の福田正博氏の話に耳を傾けた。その後、JリーグオフィスやJリーグ関連会社を訪問し、最後に日本サッカーミュージアムを見学した。大阪でも関西圏の小学生たちが、サッカーに関わる仕事に従事する人々や元Jリーグ選手の森島寛晃氏から話を聞いた。

また、子どもたちによる当日の活動の様子は、アイデムが毎週発行している求人フリーペーパー「ジョブアイデム」に掲載される。

Jリーグ20周年記念 浦和レッズ vs 鹿島アントラーズを「Jリーグ20thアニバーサリーマッチ」として開催

JLEAGUE 20th Anniversary
2013.5.11 Saitama Stadium 2002
URAWA REDS vs KASHIMA ANTLERS

Jリーグは、5月15日(水)を迎えるJリーグのリーグ戦開幕20周年を記念して、5月11日(土)に埼玉スタジアム2002で開催するJ1リーグ戦第11節の浦和レッズ vs 鹿島アントラーズを、「Jリーグ20thアニバーサリー

マッチ」とすることを決定した。1993年のリーグ戦開幕当初からJリーグに参加し、この20年間で最多入場者数を誇る浦和と、同じく7回の最多優勝を誇る鹿島の対戦を、同日に開催するJ1第11節の全9カードの中から、「アニバーサリーマッチ」として選定した。なお、当日は「レジェンドプレイヤー」として各クラブで活躍したポンテ(浦和)、アルシンド(鹿島)の元選手も登場する予定。



それぞれのクラブで活躍したポンテ(左)とアルシンド

「日越友好 40 周年記念事業 サッカーを通じた国際親善交流イベント」を後援

Jリーグは「日越友好40周年記念事業サッカーを通じた国際親善交流イベント」を後援することを決定した。同イベントは、川崎フロンターレと、ベトナムプロリーグVFF(Vietnam Professional Football)所属のビンズンFCが交流し、両国の友好促進、ベトナムのサッカーおよびコミュニティ発展への寄与を目的に開催。同国で6月1日(土)～2日(日)に、

両クラブ間の親善試合と子どもたちを対象にしたサッカークリニックを予定している。JリーグとVリーグは昨年8月、両リーグ間のパートナーシップ協定を締結している。

また、鹿島アントラーズは日本ベトナム友好年(外交関係樹立40周年)記念親善試合として、6月4日(火)に同国の首都ハノイで同国U-23代表と対戦することを発表した。



©JLEAGUE PHOTOS
川崎FとビンズンFCの関係者などが参加して3月25日に発表会を開催。写真中央は川崎FのFW大久保嘉人

第27回全国少年少女草サッカー大会を後援

Jリーグは4月16日の理事会で、2013年8月10日(土)～14日(水)にIAIスタジアム日本平、清水総合運動場など37グラウンドで開催される「第27回全国少年少女草サッカー大会」を後援することを決定した。本大会は、スポーツの力で未来を拓く「Jリーグ百年構想」と同じ理念のもと、全国のサッカー少年少女にプロ選手との交流、合宿、交流戦の機会を提供することを目的としている。

キャリアデザイン支援プログラム 2013年度 Jリーグ版 「よのなか」科ファシリテーター養成講座 開講

Jリーグは2010年度より、Jリーグの人材育成活動における選手教育の取り組みとして、文部科学省委託事業の「Jリーグ版「よのなか」科」(正式名称: Jリーグをテーマに、競技者としてのキャリアを考える「キャリア・デザイン・サポートプログラム」)を実施している。本プログラムは、これまでに25クラブのアカデミーで実施され、今年度は全クラブでの実施実績獲得を目指すと同時に、ホームタウン活動での有効活用を図る。昨年に引き続き、本年度もプログラムのファシリテーター(進行役)養成を目的とした講座を、6月13日(木)～12月に開講する。

2013 Jリーグ J1リーグ戦 3月 月間ベストゴールが決定

Jリーグは、3月のJ1リーグ戦で生まれた108得点の中から、横浜F・マリノスのMF中村俊輔(写真右)が同9日の第2節、清水エスパルス戦で8分に決めたゴールを、3月のJ1月間ベストゴールに決定した。月間ベストゴールは、4月2日から11日までの期間、Jリーグ公式ホームページおよびJリーグオフィシャルブロードキャスティングパートナーであるスカパー!公式サイトにおいて、各節のノミネートゴールより一般投票で選出。各月の月間ベストゴールの中から「最優秀ゴール賞」が決まり、12月3日(火)に横浜アリーナで開催される2013 Jリーグアウォーズで表彰される。



©JLEAGUE PHOTOS

クラスにあふれかえった緑色

日本経済新聞 ◎ 谷口 誠(たにぐち まこと)

PROFILE

1978年12月31日生まれ。滋賀県湖南市出身。膳所高校→京都大学卒。2002年に日本経済新聞社に入り、スポーツや警察、行政、東日本大震災などを取材。サッカー担当は通算3年目。経験スポーツは剣道、水泳、バスケットボール、ラグビー。



「知ってるか？ Jリーグっていうのができるねんぞ」。21年前、中学校からの帰り道。同級生のサッカー部員が自慢話を始めた。

当時、滋賀県の地元で日常的にテレビ観戦できたスポーツは野球だけ。「三菱ダイヤモンドサッカー」も近くの山に電波を阻まれ、砂嵐の向こうだった。バスケットボール少年だった私にとって、サッカーは同じ「日の当たらないスポーツ」。連帯感を感じていた。

「プロ野球みたいのがサッカーでもできるんや。すごいぞ」と語る友人の横顔が、夕日に照らされてまぶしい。急に置いてけぼりにされた気がした私は「バスケだって、そのうちプロができるわ!」とムキになって言い返すことしかできなかった。

翌年、実際にJリーグが開幕。友人の予言通り、田舎の中学生生活は一変した。校内の圧倒的な1番人気は、日本代表の人気選手を多く抱えるヴェルディ川崎。毎週のテレビ中継では、誰もがカズこと三浦知良選手やラモス瑠偉さんのプレーにきぎ付けになった。下敷きや筆箱、キーホルダー……。クラス

の中も緑色のグッズであふれかえった。

女子の視線を集めていたのは甘いマスクの武田修宏さん。ブロマイドを下敷きに何枚も張り付け、授業中に見入っているクラスメートもいた。「カズの方がいいやん」と軽々しく口にしようものなら、「あんたなんか武田さんのかっこよさは分かんや!」と叱責された。

スーパーファミコンで最初の公認ゲーム「プライムゴール」を買ったと、わが家は同級生のたまり場になった。野球部、柔道部、帰宅部……。尾崎豊を愛するボンタン姿の友人も集まり、腕を競い合った。

「グッズを出せば売れるという状態だった」。1992年からグッズ販売に携わる、Jリーグエンタープライズ常務の北島秀昭さんは振り返る。開幕1年目の93年度、ゲームやグッズなどの売り上げからリーグに入る商品化権料は36億円に達した。

怒濤のような熱狂は過ぎ去るのも早かった。開幕から2、3年たち、高校生になったころ、Jリーグについて熱く語る友人はサッカー部員でもいなくなっていた。商品化権料も初年度をピークに激減。98年度には2億円強まで減った。近年は6億円前後にまで戻しているが、当初の水準にはほど遠い。

地上波でのテレビ中継も急速に少なくなった。多くの人に見てもらえるチャンスがあるゴールデンタイムの放送は、2004年12月のチャンピオンシップ第1戦(横浜

F・マリノス vs 浦和レッズ)が最後。リーグ戦に限定すれば、日韓共催のFIFAワールドカップ直後の02年8月、ベガルタ仙台 vs 鹿島アントラーズからない。

日本代表戦の地上波中継は相変わらず高い視聴率を保っているが、今ではメンバーの大半が海外組。「Jリーグの選手をテレビで目にする機会」は、開幕以来、今が最も少ないだろう。サッカーをしていない中学生の間で、Jリーグが話題に上ることもどれだけあるだろうか。

一方で、20年という時間がJリーグを社会に深く浸透させたことも確かだ。開幕当初からの人気商品、レプリカユニフォームひとつとってもそうだ。「最初はスタジアムに着いてからユニフォームに着替える人が多かった。今は自宅から着ていく人が増えている」と北島さん。確かに、週末に電車に乗れば、可憐な中村俊輔や、白髪の阿部勇樹に出会える。「自分はこのクラブを愛しているんだ」と服装で主張することに対し、恥ずかしさではなく誇りを感じる人が増えたのだろう。「グッズの種類も20倍くらいに増えた」と北島さんは話す。浦和では赤いバラやランドセル、家まで登場している。

創設の理念である、地域密着という考え方もスポーツ界に根を下ろした。05年に誕生したバスケットボールの「bjリーグ」も、Jリーグを参考にしてできたものだ。

到達した深みと、拡大を止めたようにも見えるファンの輪。誕生から20年がたち、Jリーグは再びその輪を広げる時期に来ているのではないだろうか。もう一度リーグを立ち上げるような意気込みで大胆な手を打ち、今まで縁遠かった人も強力に引き寄せるような磁力を再び持てるようになれば。Jリーグを熱く語って周りを嫉妬させてしまふ、あの日の友人のような存在も次々に生まれるのではないかな。



© J.LEAGUE PHOTOS

1993年5月15日のJリーグ開幕戦、V川崎 vs 横浜M。あれから20年、未来に向けてJリーグの輪をさらに広げる時期に来ている

